

平成29年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は創立100年を迎える歴史の中で、地域に親しまれ地域で活躍する人材を数多く輩出してきた。
生徒一人ひとりと丁寧に向き合い、確かな学びをサポートして、社会に貢献する生徒を育成する学校をめざす。

1. 多様な進路を志す生徒の夢をかなえるため、「やったらでき やらなでけん」をキーワードに、高い学習意欲を持った生徒を育てる。
2. 生徒指導に力点を置き、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努め、将来の社会人として自立できるよう生徒を育成する。
3. 生徒が互いを認め合い、持てる力を最大限に発揮できる安全で安心な教育環境を構築する。
4. 生徒一人ひとりが自信と希望を持って学校生活を送るよう、学校行事や部活動をはじめ、「成功体験」を感じることができるよう教育活動を展開する。
5. 地域に支えられてきた本校のたすまいを大切に、学校情報の発信に努め、家庭や地域住民、中学校との連携を深め、地域に本校の応援団となっただけのよう、開かれた学校づくりを行う。

2 中期的目標

1 生徒の進路実現の支援

(1) 進路指導体制の確立と進路実績の向上

- ア 生徒の多様な進路に対応できるよう、進学講習や資格取得に向けた指導など進路指導部を中心とした3年間の進路指導体制を確立する。
イ 3年間を見通した進路計画のもと、「総合的な学習の時間」やLHRを通して、早期(1年時)から卒業後の進路に向け動機づけを行う。
ウ 進路希望実現率の向上を図る。
2年4月実施の基礎学力調査で国数英3教科が難関・中堅8私大合格レベル以上の生徒の半数以上を卒業時の現役合格をめざす
医療・看護系短大・専門学校への進学希望者の全員合格
就職について早期指導と企業開拓に努め、引き続き100%の就職率をめざす。

※「総合的な学習の時間」を充実させ、積極的に進路選択に取り組む意識の醸成をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する項目で、1年終了時点で卒業後の進路希望を決めている生徒の率(平成28年度58%)を平成31年度60%をめざす。
※学校教育自己診断の進路に関する指導や情報提供に関する項目で、平成31年度に生徒の肯定的回答80%をめざす。(平成28年度生徒76%、保護者82%)

2 確かな学力の育成

(1) 積極的な進路選択のための確かな学力の育成

- ア 生徒の進路希望に応えるようカリキュラムの点検・充実を図る。
イ 基礎学力検査や英語検定などの各種検定試験を校内実施し、学習の具体的な目標とする。
※ 3年4月の基礎学力調査で、英数国それぞれ、受験者中、推薦入試合格レベル以上の人数割合を平成31年度に60%以上(平成28年度:英55%、数82%、国57%)

(2) 「わかる授業・できる授業」をめざした学びの充実の取組み

- ア 授業改善に向けた教員研修、研究授業の充実を図る。
イ 分かりやすい授業を進めるため、「平成27年度学校経営推進費事業」により導入した全普通教室にプロジェクタを含め、ICT機器・視聴覚機器の活用を進める。
ウ 教科ごとの学力の到達目標と達成へのロードマップを策定し、1年から目標をもって授業に取り組む姿勢を育成する。

※授業アンケート中の授業に対する評価に占める肯定的回答平成31年度に85%をめざす。(H28第2回80%)

※学校教育自己診断で、「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を平成31年度に70%をめざす。

※学校教育自己診断で、「自分なりの目標をもって授業に臨んでいる」生徒の割合を平成31年度に70%をめざす。(H28:62%)

3 基本的な生活習慣・規律・規範の確立と生徒の活動の活性化

(1) 生徒の基本的な生活習慣を確立し、規律・規範意識を醸成するとともに、課題を抱えた生徒への支援体制を強化する

- ア 生徒にマナーとルールに関する意識を徹底し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
イ 不登校生徒や家庭状況など様々な困難を抱えた生徒に対して、保護者及び中学校、関係機関等と緊密な連携を図るとともに、保健指導・教育相談体制を充実させる。
ウ お互いを認め合い、尊重し、支え合う人間関係づくりを通して、安全で安心な教育環境を構築する。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒に成功体験を持たせる。

※生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関する項目で、「本校の指導は適切で納得できる」(H28:56.4%)平成31年度に65%をめざす。
※生徒の部活動入率(H28:58%)を平成31年度には70%をめざす。生徒向け学校教育自己診断の学校行事満足度(H28:75%)を平成31年度には80%をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断の「授業等で、豊かな心や人の生き方について考える機会が多い。」(H28:56%)を平成31年度には60%をめざす。

4 地域連携の推進

(1) 教育活動についてホームページ等を通じて積極的に発信するとともに、地域社会の一員として地域の様々な取組みに参加・貢献する。

- ア ホームページや学校説明会・中学校訪問を通して渋谷高校の教育内容の広報に努め、生徒が高校で学ぶ意義・目標をもって入学してくる学校づくりをめざす。
イ メールマガジンの充実を図り、教育活動について保護者との連携を強化する。
ウ 近隣の小・中学校や関係機関・団体との連携をさらに深めつつ、地域の乳幼児と保護者を招いての保育実習講座「渋谷であそぼうデイ」や天文観測会、生徒会及び部活動の地域行事への参加を進める。
※生徒向け学校教育自己診断の地域連携に関する項目で、教育活動を通して、地域の人々に関わる機会があると回答する生徒の率(H28:44%)平成31年度には50%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活】 「渋谷高校に来てよかった」と回答した生徒が82%でほぼ昨年並み、「子どもは渋谷高校が楽しいと言っている」と答えた保護者が86%で5%上昇。学校行事の満足度は生徒は4%上昇、保護者もやや上昇し、部活動の充実度についての保護者の評価も昨年度を大幅に上回った。行事の工夫や丁寧な指導を心がけたことで、学校生活全般に対する満足度を大幅に高めることができた。</p> <p>【学習指導】 生徒の家庭学習時間が1時間以上の者は24%と横ばいであり、学習習慣の定着は依然として課題である。一方、子どもが予復習していると答える保護者は24%と7ポイント下回り、学習の習慣づけに課題がある。「自分なりの目標を持って授業に臨んでいる」生徒が65%と上昇を続けており、キャリア学習の強化が授業に対する取り組み意識の向上につながった。</p> <p>【生活指導】 「納得できる指導か」については、生徒が51%と昨年を5ポイント下回る結果となった。遅刻・頭髪・服装指導を強化しているが、丁寧に指導方針を浸透させる必要がある。保護者は9ポイント上昇、学校の指導を受け入れている。</p> <p>【進路指導】 組織的な進路指導体制の充実が進みつつあり、進路情報について「学校はよく知らせてくれている」は、生徒は75%と横ばいだが、保護者は85%に上昇した。</p>	<p>第1回学校協議会 6月12日(月)</p> <p>○生徒指導について ・ごく一部、指導に従っていない生徒がいるのが残念。カウンセリングマインドを持ちながら、さらに尽力すれば、すばらしい学校になる。</p> <p>○教育活動について ・高校でも人権教育に取り組んでいることを聞いて安心した。</p> <p>第2回学校協議会 11月28日(火)</p> <p>○生徒指導について ・スマホの取り扱い、化粧、頭髪の指導はどうなっているのか?</p> <p>○教育活動について ・授業方法を工夫して、生徒自らが取り組めるようにしてほしい。 ・部活動の選択の幅を維持してほしい。</p> <p>第3回学校協議会 2月14日(水)</p> <p>○校則、内規について ・校則と内規の内容について精査した結果、見直しの必要はない。</p> <p>○学校経営計画や学校評価について ・具体的になってきて、学校像が出てきている。分かりやすくなってきた。</p> <p>○その他 ・志願者数を増やしていただきたい。引き続き、部活動充実を図っていただきたい。</p>

府立渋谷高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路実現の支援	<p>(1) 3年間を見通した進路指導体制の構築と進路実績の向上</p> <p>ア 3年間を見通した進路指導体制の構築</p> <p>イ「総合的な学習の時間」及びLHRの検討と実施</p> <p>ウ 進路実現率の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・進路指導部と学年の連携を深め、生徒・保護者への指導及び情報提供等が適切に行える進路指導体制を構築する。</p> <p>イ・「総合的な学習の時間」及びLHRについて、3年間のキャリア学習の観点から検討・実施する。</p> <p>・基礎学力調査の結果を個人懇談・弱点克服に十分活用し、進路意識の醸成に努める。</p> <p>ウ・自習室を活用するとともに、組織的な進学講習体制を充実させる。</p> <p>・各種技能検定の受験を積極的に勧め、学習の目標を持たせる。</p> <p>・関西8私大現役合格</p> <p>・多様な進路希望の実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断において保護者「進路情報の提供は適切である」85% (H28:82%) 生徒「進路についての情報をよく知らせてくれる」80% (H28:76%)</p> <p>イ・生徒向学校教育自己診断において「卒業後の進路希望を決めている」を1年次で60% (H28:60%)、2年次で75% (H28:73%)</p> <p>ウ・生徒向学校教育自己診断における進路に関する項目で「進学講習に参加した」25% (H28:23%)</p> <p>・難関中堅8大学へ7名の現役合格 (H28:10名)</p> <p>・看護医療系進学率100% (H28:100%)</p> <p>・就職内定率100% (H28:100%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断において保護者「進路情報の提供は適切である」は85%で目標達成。(◎)</p> <p>・生徒「進路についての情報をよく知らせてくれる」はマイナス1ポイントの75%。3年生のみでは79%でほぼ達成。(△)</p> <p>イ・生徒向学校教育自己診断において「卒業後の進路希望を決めている」を1年次は58%、2年次は73%でほぼ横ばいとなった。学校見学等の取組み強化の検討が必要。(△)</p> <p>ウ・生徒向学校教育自己診断における進路に関する項目で「進学講習に参加した」は25%で目標達成。(◎)</p> <p>・難関中堅8大学へ16名の現役合格。(関西大3、京産大8、近畿大3、龍谷2) (◎)</p> <p>・看護医療系進学率90% (△)</p> <p>・就職内定率100%。(◎)</p>
確かな学力の育成	<p>(1) 積極的な進路選択のための確かな学力の育成</p> <p>(2) 授業改善の取組</p> <p>ア 授業研究・研修の充実</p> <p>イ 視聴覚機器の活用</p> <p>ウ 授業に取り組む姿勢の育成</p>	<p>(1)</p> <p>・教育課程を点検し、必要に応じて修正を行う。</p> <p>・基礎学力調査や各種検定を学習の具体的目標として活用する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 引き続き、授業充実プロジェクトチームを中心に研究授業、授業公開を行い、授業の充実に取り組む。</p> <p>イ 普通教室に設置したプロジェクタを活用し、ICT機器を活用した指導法の工夫をすすめる。</p> <p>ウ 授業に取り組む姿勢を育成するとともに、予習・復習など家庭学習の習慣づけを図る。</p>	<p>(1)</p> <p>・生徒向学校教育自己診断における「目標を持って授業に臨んでいる」65% (H28:62%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向学校教育自己診断における「満足できる授業が多い」70% (H28:65%)</p> <p>・保護者向学校教育自己診断において「子どもは授業に満足している」65% (H28:62%)</p> <p>イ・生徒向学校教育自己診断における授業に関する項目で「視聴覚機器の活用」5%増 (H28:78%)</p> <p>ウ・生徒向学校教育自己診断における家庭での学習時間1時間以上30% (H28:25%)</p>	<p>(1)</p> <p>・生徒向学校教育自己診断における「目標を持って授業に臨んでいる」は65%で目標達成。学年進行に従って数値は高くなっている。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向学校教育自己診断における「満足できる授業が多い」は68%で3%アップに留まった。このまま上昇傾向を維持したい。(△)</p> <p>・保護者向学校教育自己診断において「子どもは授業に満足している」は70%で8%アップ。ICT活用、アクティブラーニングの実践が功を奏した。(◎)</p> <p>イ・生徒向学校教育自己診断における授業に関する項目で「視聴覚機器の活用」は79%で1%増にとどまったがほぼ全教科で実施している。教員用タブレットの充実が必要。(△)</p> <p>ウ・生徒向学校教育自己診断における家庭での学習時間1時間以上は24%で3年間ほぼ横ばい。学年進行に従って数値は高くなっている。(△)</p>
規律・規範の確立と生徒の活動の活性化	<p>(1) 生徒の基本的生活習慣を確立し、規律・規範意識を醸成するとともに、課題を抱えた生徒への支援体制を強化</p> <p>ア 生徒にマナーとルールに関する意識を徹底し、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める</p> <p>イ 支援を必要とする生徒、不登校生徒や家庭状況が困難な生徒等に対して、保護者等との緊密な人間関係を構築するとともに、保健指導・教育相談体制を充実させる</p> <p>ウ 安全で安心な教区環境の構築</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒に成功体験を持たせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・基本的生活習慣の基礎として、遅刻指導に引き続き取り組む。</p> <p>・下校時の立ち番指導及び地元警察との連携等により、下校時の自転車マナー指導を強化する。</p> <p>・生徒指導方針を生徒に明確に示し、学校全体での指導にあたることにより、規範意識の醸成に取り組む。</p> <p>イ・支援を必要とする生徒の指導については、これまで支援教育委員会・教育相談委員会・生活指導部・学年・養護教諭が連携を取り、保護者の理解を得ながら進めてきた。合理的配慮を含め、引き続きこの連携を密にする。</p> <p>・スクールカウンセラーや子ども家庭センターなどの外部専門機関との連携を積極的に進める。</p> <p>ウ 総合的な学習の時間やLHR、特別活動を通して、お互いを認めあい、支え合う人間関係づくりを進める。</p> <p>(2)</p> <p>・1年生の1学期中の全員入部制度により部活動への参加を勧める。</p> <p>・大会等で好成績を収めた部に対する支援と広報に努める。</p> <p>・文化祭、体育祭等の生徒会行事への積極的な参加を促進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻数年間3000件 (H28:3348件)</p> <p>・地域からの登下校の自転車マナーの苦情減 (H28:13件)</p> <p>・生徒向学校教育自己診断において「本校の指導は適切で納得できる」60% (H28:56%)</p> <p>イ・支援教育委員会・教育相談委員会での定期的な情報交換の実施</p> <p>・生徒向学校教育自己診断において「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」60% (H28:54%)</p> <p>ウ・生徒向学校教育自己診断において「授業等で、豊かな心や人の生き方について考える機会が多い。」50%以上を維持 (H28:56%←H27:46%)</p> <p>(2)</p> <p>・部加入率60% (H28:58%)</p> <p>・生徒向学校教育自己診断において学校行事の満足度80% (H28:75%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻3385件 遅刻防止強化週間の設置など2学期の大幅増加防止対策が必要である。(△)</p> <p>・自転車マナー苦情13件</p> <p>保護者・教員合同の下校指導を実施し自転車マナーの向上を図った。引き続き指導を行う。(○)</p> <p>・生徒向学校教育自己診断において「本校の指導は適切で納得できる」は51%で5%ダウン。今年度遅刻指導、身だしなみ指導を強化したことに影響か？2、3年生のダウンはみられるが1年生は58%で昨年度全体平均より高い。(△)</p> <p>イ・支援教育委員会・教育相談委員会を29回開催。</p> <p>・生徒向学校教育自己診断において「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」は56%で昨年より2%アップ。支援を必要とする生徒の増加にも関わらず教員がよく対応している。(△)</p> <p>ウ・生徒向学校教育自己診断において「授業等で、豊かな心や人の生き方について考える機会が多い。」は62%で6%アップ。「総合的な学習の時間」及びLHRの系統的計画的実施が功を奏した結果といえる。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>・部加入率61%で目標達成。(◎)</p> <p>・生徒向学校教育自己診断において学校行事の満足度79.4%で4%アップ。ほぼ目標達成。(○)</p>
地域連携の推進	<p>(1) 教育活動についてホームページ等を通じて積極的に発信するとともに、地域社会の一員として地域の様々な取組に参加・貢献する。</p> <p>ア 情報発信の充実</p> <p>イ 地域連携の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア ホームページ、学校説明会や中学校訪問を通じて積極的な広報活動・情報発信を行う。</p> <p>イ 生徒会・部活動による地域行事への参加など地域への貢献を一層進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・魅力あるホームページづくりに努め、大阪市・池田市・豊中市・箕面市からのアクセス数4万をめざす (H28:約3万8千)</p> <p>イ・生徒向学校教育自己診断において「地域の人々と関わる機会がある」45% (H28:44%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・大阪市・池田市・豊中市・箕面市からのアクセス数43905件。約6000件増となり目標達成。ブログの更新数を大幅に増やしたことでメールマガジンを用いてホームページ更新情報を頻りに発信したことが功を奏した。(◎)</p> <p>イ・生徒向学校教育自己診断において「地域の人々と関わる機会がある」は47%で目標達成。部活動やボランティア活動での地域貢献を引き続き実施したい。(◎)</p>